

迫害の10年：1877 - 1887

| 年表 年代 | 重要な出来事 |
|-----------|--|
| 1862 | モリル法 最初の重婚禁止法が議会通过する |
| 1874 | ポーランド法可決。多妻結婚に関与した男性の起訴が可能となる |
| 1875 | ジョージ・レイノルズ、「試験的訴訟」により有罪となる |
| 1877 | ジョン・テラーを会長とする十二使徒定員会がブリガム・ヤングの死後の教会を導く |
| 1879 | 合衆国を相手取ったジョージ・レイノルズの訴訟に関して、合衆国最高裁判所は、重婚禁止の法制化を支持する |
| 1880.10 | ジョン・テラー、教会の第3代大管長として支持される |
| 1882 - 83 | 七十人定員会が再組織され、強化される |
| 1882 | エドマンズ法可決。多妻結婚禁止運動高まる |
| 1885 | メキシコにおける入植が定着する |
| 1885 | テラー大管長、中央幹部を含む多くの教会員が地下に潜入する |
| 1887.7.25 | ジョン・テラー大管長、ユタのケイズビルで死去 |
| 1887 | エドマンズ・タッカー法可決 |

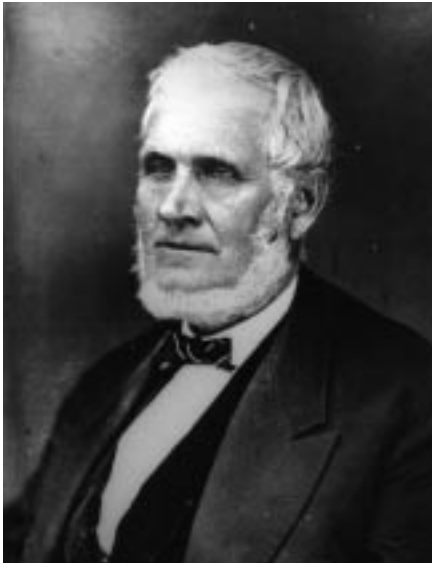
ブリガム・ヤングが他界した直後の10年間は、教会にとって最も困難な時代であったが、それと同時に最も躍動した時代でもあった。多くの改革グループの激励と支援を受けた合衆国政府は、多妻結婚を禁止する幾つかの法律を議会で可決した後、法律を施行し、さらにメディアを使って反対キャンペーンを展開した。しかしながら、こうした激しい迫害のさなかにも教会は、ジョン・テラーの優れた指導の下に依然として会員数を増し続け、入植地を拡大し、教会のプログラムを次々と展開していった。

使徒による管理の時代の出来事

ヤング大管長の死後、十二使徒定員会が再び教会を導くことになった。1877年9月4日に開かれた十二使徒定員会の会合において3つの重要事項が決定された。第1、十二使徒定員会を教会の管理定員会とする。第2、ジョン・テラー長老を十二使徒定員会会長に任命する。第3、ジョン・W・ヤング長老とダニエル・H・ウエルズ長老を「ブリガム・ヤングを副管長として補佐したと同じように十二使徒の補佐」とする。

1か月後の1877年10月6日、ジョージ・Q・キャノン長老は総大会に出席した人々に対して、その日の午後の部会を神権の聖会とすることを発表した。聖会は、カートランド神殿の奉献式以来長い間開催されていなかったが、当時の形式に従って進行することになった。キャノン長老は次に各神権定員会の着席場所を指示した。その日の午後開催された聖会において、各定員会は全会一致でジョン・テラー会長を十二使徒定員会の会長として、また「十二使徒を教会の管理定員会および幹部として」²支持した。

ジョン・テラーは英国で生まれ、たる職人として奉公した後、青年時代にカナダに渡った。カナダで10歳年上のレオノーラ・キャノンと出会い、結婚している。ジョン・テラーは敬虔なメソジスト信者だったが、末日聖徒イエス・キリスト教会との出会いを得ると熱心に研究を始め、3週間にわたって行われたパーリー・P・プラット長老の説教にすべて出席した。ジョン・テラーはそれらの説教を筆記したものを『聖書』と比較し、教会について祈り、そして改宗した。1839年には使徒に聖任されている。教会の数多くの機関誌の編集に携わり、カーセージの監獄においては預言者ジョセフとともにあわや命を落とすかという経験をし、様々な場所で伝道の召しを果たしてきた。恐れを知らない信仰の擁護者として知られていたジョン・テラーは、「神の王国以外に何もをも求めないこと」を個人的な指針として大切にした。十二使徒定員会で働いた30年近くの間、彼は与えられたすべての召しに忠実にこたえた。こうして、迫害のただ中であって教会を導くために、あらゆる



ジョン・テラー大管長（1808 - 1887年）

面での準備を整えたのである。

ブリガム・ヤングの葬儀を終えたジョン・テラーと十二使徒会は、ヤング大管長の資産のうち、どれだけが教会の資産であり、どれだけが相続人の資産かを選別するというやっかいな問題に取り組んだ。1862年に制定されたモリル重婚禁止法により、教会は、専ら宗教以外の目的に使用し、評価額5万ドルを超える資産を所有できなくなっていた。このため、同法施行後に教会が取得した資産はブリガム・ヤング大管長の個人名義にしておいた。テラー会長は、教会の特定の事業用資産を内密に信託人の個人名義とする方針を継続することにした。テラー会長はジョージ・Q・キャノン、アルバート・カリントン、ブリガム・ヤング・ジュニア（ブリガム・ヤング・ジュニアはヤング家の利益代表）を資産の鑑定人に指名した。国中の新聞がこれを探り上げて報道したことにより、様々な憶測が飛び交うこととなったため、彼らの任務はいっそう困難なものとなった。資産は何百万ドルにもなるといううわさが勝手に広がり、こうしたうわさがまたヤング大家族の何人かに膨大な額の遺産を相続できるという期待を持たせることにもなった。

3人の鑑定人は数か月にわたる懸命な作業の結果、資産の推定価値を162万6,000ドルと決定した。しかしながら、このうち教会に所属する資産は100万ドルを超えていた。ヤング家の相続人のうち7人は、金額が期待していたほどではなかったため、第3地区裁判所に不服を申し立てた。そしてこの申し立てが審理に付されることになったため、いやが上にも国中の好奇心をあおることになった。モルモンに反対する立場を自ら明確にしていた判事ジェイコブ・ボアマンは、相続人と結託して、鑑定人に対して法廷侮辱の罪を着せた。キャノン長老、ヤング長老、カリントン長老の3人は1879年8月に、準州最高裁判所がボアマン判事の判決を覆すまでの3週間、ユタ準州刑務所に収監された。そして、最終的に教会指導者は相続人に対して7万5,000ドル相当の資産を余分に渡すことに合意して、結審となった。

1880年4月の総大会において教会は設立50周年を祝うことになった。テラー会長は『旧約聖書』に由来する50年祭の年とすることを宣言した。テラー会長は教会を代表して、永続的移住基金に対して返済が完了していない聖徒たちの負債総額から80万2,000ドル（負債総額の半分）を免除すると発表した。次いで、貧しい人々に牛や羊を供与するよう要請し、また扶助協会に対して備蓄している小麦を、収穫のなかった農家に無利子で貸与するよう奨励した。また、準州内の貧困状態を解消するため、全聖徒に対して貧窮者に援助の手を差し伸べるよう求めた。³

十二使徒による管理の時代にも、王国の境を広げる努力は継続された。ワイオミング西部のスターバレー、ユタ東部のカッスルバレー、ユタ南東部の未開地サンウォン川地方、ネバダ南部のバージン川地域、さらにはアリゾナ北部に多数と、合計100を超える新たな定住地が築かれた。

ヤング大管長の死後3年以上が経過した1880年10月、新しい大管長会が組織され、教会員の支持を受けることになった。神権者は再び聖会において、定員会ごとに支持を求められた。ジョン・テラー、ジョージ・Q・キャノン、ジョセフ・F・スミスの名前が聖徒たちに提示され、全会一致で承認された。優れた能力の持ち主であったキャノン長老とスミス長老は、テラー大管長とさらに2代にわたる後続の大管

長の副管長として働いた。

多妻結婚

末日聖徒に対する迫害の多くは、預言者ジョセフ・スミスの指示の下に始められた多妻結婚が原因となっていた。多妻結婚の律法は1831年にはすでに預言者に明らかにされていたが、預言者は信頼するごく少数の友人にしか打ち明けていない。律法に従うようにとの神の厳命により、預言者は1841年、教会のおもだった神権者に対して多妻結婚と彼らがこの律法に従うべき責任について教え始めた。預言者ジョセフ・スミスは1843年にウィリアム・クレイトンにこの啓示を口述して記録させたが、これが多妻結婚に関する最初の記録となる。しかし、この啓示が総大会で読み上げられ、さらに文書として印刷されたのは9年後のことである。⁴

1852年8月28日と29日にソルトレーク・シティーのテンプルスクウェア内旧タバナクルにおいて特別大会が開かれた。大会の初日、合衆国、オーストラリア、インド、中国および海の島々に派遣される100名以上の宣教師が召された。8月に大会が開かれたのは、宣教師たちが厳寒の冬に突入する前に大平原を横断できるようにとの配慮からであった。

大会の2日目にオーソン・プラットはブリガム・ヤング大管長の指示により、教会は神の命令により多妻結婚を実施していることを公にした。国家との関連については次のように宣言している。「我が国のすべての国民は憲法により、宗教上の信条を実践する自由、信教の自由、および信教に基づく行動の自由という特権を与えられています。したがって、もし末日聖徒が複数の妻を持つことを教える教義をその信条の部分および一部として受け入れていることを証明できるのであれば、憲法に違反することはないと考えます。したがって、わたしたちの宗教のこの部分を実践する自由を制限する法律が政府によって制定されるとするならば、そのような法律は合憲性を欠いていると言わざるを得ません。」⁵

プラット兄弟は続いて、聖典に基づいて、多妻結婚に関する説教を長時間にわたって行った。結婚は霊が肉体を得るための方法として神が定められたものであり、ふさわしい神権者による多妻結婚を通して主の前に義とされる多くの子孫を育てることができることを説明した。続いてブリガム・ヤングは日の栄えの結婚に関連した啓示の歴史を簡単に紹介しながら説教を行った。そして、歴史事務局の事務員トーマス・バロックが会衆の挙手による支持を求めるため、啓示を読み上げた。

教会指導者は多妻結婚に反対する世論の高まりと、否定的な報道が洪水のように押し寄せることを想定していた。そして、有識者の納得を得られるような説明ができる4人の信仰篤い指導者を直ちに大都市へ派遣し、「日の栄えの結婚」および回復された福音の他の原則について正当性を説明する記事を掲載するための新聞を発行させた。ジョン・テラーはニューヨーク市で『モルモン』(Mormon)を、オーソン・プラットはワシントンD.C.で『聖見者』(Seer)を、エラスマス・スノーはセントルイスで『セントルイス・ルミナリー』(Saint Louis Luminary)を、ジョージ・Q・キャノンはサンフランシスコで『ウェスタン・スタンダード』(Western Standard)を発行した。これらの新聞を通して、多妻結婚を実施した聖徒の義にか

ジョン・テラーが発行した新聞『モルモン』(Mormon)は、ニューヨークの主要な新聞『ニューヨーク・ヘラルド』(New York Herald)、『ニューヨーク・トリビューン』(New York Tribune)が社屋を置く同じ通りで印刷された。テラー長老が考案した大胆な題字は、第1面の半分近くを占めた社説と同様に異彩を放った。驚の左側にモルモンの綱領「自分の仕事に専念せよ」が見られる。

『モルモン』は28のコラムから成る週刊新聞で1855年2月17日に発刊され、1857年9月まで続けられた。



なった動機を説明する記事を發表した。全国紙や俗悪な雑誌，劣悪小説の内容とはまったく逆の説明であった。教会の優れた作家が執筆した記事が公表され，優れた話者による講演会が展開されたにもかかわらず，各種の反対グループが結成され，このような結婚制度を撲滅する法律制定に向けて政府に対して圧力をかけ始めた。

多妻結婚反対運動

多妻結婚の実施は自分たちの宗教と道徳上の権利であることを一般市民に納得させるために，末日聖徒はあらゆる努力を重ねたにもかかわらず，国中が結束して教会に反対した。英国やヨーロッパ大陸の宣教師はしばしば暴漢に襲われ，アメリカでは何人かの長老たちが殺害された。多くの人々が多妻結婚を非道德的で，野蛮で，嘆かわしい行為であると考えた。多妻結婚をさせられ虐待されている女性たちの真の姿を暴くと称する書籍が大量に出回った。多くは，ユタを訪れたことのない人やうわべだけを見た人が書いたものだった。

1862年，リンカーン大統領はモリル法として知られる重婚禁止法案を法制化する文書に署名したが，南北戦争が勃発したためこの法律は施行されなかった。しかし，この法律制定により多妻結婚制度と教会は打撃を受けた。準州内の多妻結婚が禁止され，教会の法人格が剥奪され，教会の所有資産の上限を5万ドルに制限されたのである。合衆国憲法修正第1条に基づく信教上の自由な行為の権利をこの違憲立法により剥奪されたと考えた聖徒たちは，合憲性が確定されるまではこの法律を無視することにした。

その後の数年間，重婚禁止法の強化を目指すための法案が幾つか上程されたが，いずれも合衆国議会を通過することはなかった。教会に対して情け容赦なく反対する人々が中心になってユタ準州内で起草された，ウェイド法案，クラジン法案，カロム法案などがそれである。1866年に登場したウェイド法案がもし議会を通過していれば，ユタ政府は転覆していたと思われる。3年後にクラジン法案が提出されたが，数日後にカロム法案と差し替えられた。これはウェイド，クラジン両法案よりもはるかに過激であった。教会員は結束して法案の廃案に向けて立ち上がった。教会の女性たちは1870年に準州全域で法案に反対する大衆運動を繰り広げた。

「彼女たちは反『モルモン』の性格を持つあらゆる法律の制定に反対した。運動の中心は，モルモンの改革を希望すると称し，教会の女性が専制的な夫によって『虐げられ』『虐待され』ていると主張する人々に対する反論であった。」⁶ 末日聖徒

「ユタの開拓者の娘たち」の厚意により掲載、ユタ州ソルトレーク・シティ



エリス・R・シップ博士（1847 - 1939年）はアイオワで生まれ、1853年に両親とともにユタへ移住した。

多妻結婚上の妻であったエリス・シップ博士は多妻結婚がなかったならば、子供たちを夫の他の妻たちに託して医学の学位を取得する時間はなく、医師になることは不可能であったと考えていた。エリスは1878年にフィラデルフィアの医学校を卒業し、ユタで2番目の女医となった。彼女はまたミシガン医科大学においても医学の勉強を続けた。

60年間の開業中、シップ博士は自身も10人の子供を産み、6,000人以上の赤ん坊を取り上げた。シップ姉妹は1898年から1907年まで中央扶助協会管理委員会として働いた。

の女性たちによる抗議行動は、政治家や婦人参政権運動の活動家にとって大きな驚きであった。彼らはモルモンの女性が苦難と束縛により苦しめられている女性の典型であると考えていたからである。東部の新聞もこの法案には好戦的な要素が見られるために反対の立場をとった。合衆国大統領はこの法令の実施に際してユタに軍隊を派遣する権限を持つことになっていたからである。「これが実施されれば必ず戦争に発展するだろう」⁷と『ニューヨーク・ワールド』（*The New York World*）は報じた。結局カロム法案は廃案となった。

しかしながら、1874年6月にポーランド法が可決された。この法令では、合衆国地方裁判所（連邦政府から任命されたモルモンでない人が権限を持つ）に民事および刑事上の包括的裁判権を与えたため、ユタの司法制度は形骸化（けいがい）してしまうことになった。また、この法令を適用することによって、モリル法の違反者に対する裁判を開くことが可能になった。ポーランド法では、陪審員席で教会員と非教会員が平等に代表されるように、地方裁判所事務官（モルモンでない）と検認判事（モルモン）が陪審員一覧表を作成することとしていた。合衆国検事は直ちに指導的立場にある教会役員を法廷に立たせようとしたが、問題にぶつかった。教会役員の多くは法律が可決された1862年以前に結婚しており、懸案となる行為が行われた以降に制定された法律によって、過去にさかのぼってその行為を裁くことはできなかったからである。さらに、夫に不利な証言を妻に対して要求することができず、また多妻結婚の記録はエンダウメントハウスに私的な目的で保管されており、公文書とは見なされなかったのである。

教会指導者は、最高裁判所が重婚禁止法の合憲性を判断する前に、「試験的訴訟」の実施を望んだ。これに対して、合衆国検事ウィリアム・ケーリーは「試験的訴訟」が行われている間、中央幹部の告訴を見合わせることを約束した。このため、大管長会は、大管長会事務局の秘書で最近2番目の妻と結婚した32歳のジョージ・レイノルズを、法廷において教会を代表させることにした。レイノルズは彼が二人の妻と結婚していることを証明する大勢の証人をそろえた。しかし、ケーリーが約束に反してジョージ・Q・キャノン副管長を逮捕したため、教会はもはやケーリー検事に協力しないことを決定した。

1875年、レイノルズは有罪が確定し、2年間の懲役と500ドルの罰金（後に合衆国最高裁判所は禁固刑のみに変更した）が言い渡された。1876年、ユタ準州最高裁判所はこの判決を支持した。合衆国最高裁判所は1878年にレイノルズの上告を受理したが、1879年1月同裁判所は重婚禁止法の合憲性を裁定し、レイノルズに対する判決を支持した。ジョージ・レイノルズが原判決のうちの18か月の服役を終えて出所したのは1881年1月のことであった。レイノルズは服役中、他の受刑者に読み書き、計算、文法、地理などを教える生活を送っていた。レイノルズ兄弟はまた、服役中に書物の原稿を書き終えている。後に出版された『「モルモン書」の全用語索引』（*A Complete Concordance of the Book of Mormon*）である。彼は出所時にすでに2万5,000語の用語索引を完成させていた。⁸

合衆国議会は1882年に、二人以上の女性を扶養し世話することを「不法な同棲（どうせい）」と規定するエドマンズ法を可決した。2番目の妻と結婚をしているかどうかの証拠は



ジョージ・レイノルズ（1842 - 1909年）は少年時代に福音に改宗したが、両親の反対により数年間バプテスマを受けることができなかった。バプテスマを受けたのは1856年5月4日、14歳のときだった。

ジョージは1865年にアメリカへ渡るまで、英国において教会の様々な職を務めた。渡米後間もなく大管長会の秘書となり、他界するまでこの召しにあった。1890年には七十人第一定会会長の一人に召されている。有名な『「モルモン書」の全用語索引』⁹を完成するために、21年の歳月を費やした。

もはや必要とされなくなった。この法律は多妻結婚を実施する者から市民権を剥奪し、また公職に就くことを禁止した。多妻結婚を実施している人のみならず、多妻結婚を是認する人も陪審員を務める資格を失うことになった。ユタ準州のすべての登記所および選挙管理委員会職員は解雇され、合衆国大統領から任命された5人で構成する委員会が選挙を実施することになった。

エドマンズ法の議会通過直後の1882年4月に総大会が開催された。大会2日目に集まった聖徒を、みぞれ混じりの嵐が襲った。テラー大管長は天候と最近の法律制定の双方を指して、国家が聖徒たちに対して恨みを込めた偏見を募らせていることについて述べてから、「嵐が襲来しており、この嵐は聖徒たちのうえに猛威を振るうであろうことを警告した。そして幾分おどけてこう言った。『やり過ぎせばよいのです。今朝わたしたちが吹雪の中をやって来たように。襟を立て（大管長は上着の襟を立てて見せ）、嵐が静まるまで待とうではありませんか。嵐の後には太陽が顔を出します。嵐が続いている間は世の人々を説得しようとしても相手にされるはずがありません。嵐が収まれば、彼らと話ができるのですから。』」翌日テラー大管長は、聖徒はアメリカ国民としての自由と権利を守るために「少しずつ戦っていく」ことになるだろうと語っている。¹⁰

末日聖徒の多くの男性と、少数ではあったが女性も逮捕を逃れるために「地下に潜伏」しなければならなかった。こうして末日聖徒の歴史上最も困難な時期に突入したのである。投獄を逃れるため、多妻結婚を実施している父親には暗号名が付けられた。連邦の役人が接近すると暗号名で本人に警告したのである。セントジョージステーキ会長J・D・T・マカリストは暗号名ダン、ヘンリー・F・アイリングはルック（見る）と名付けられた。地域社会の呼称も同様に暗号が用いられた。セントジョージはホワイト（白）、ビーバーはブラック（黒）、トカービルはクラウド（曇り）、また合衆国連邦執行官はリング（鈴）、ボアマン判事はヘロデと名付けられた。警告は電報で発信し、たとえ連邦当局者の手に渡っても解読は不可能だった。

当時、役人は末日聖徒への嫌がらせを企てることだけに熱中していた。合衆国軍司令官フレッド・T・デュボイスは反モルモン思想を利用してアイダホにおける自分の政治的な立場を有利にしようと考えた。多妻結婚の男性を捕えようと家屋の下に掘った穴にもぐり込んだり、列車を徴用してモルモンが大勢いる町を巡回したり、モルモンの町へ潜入したり、夜中に家庭を急襲したりした。このように様々な輩が末日聖徒の周囲を徘徊^{はいかい}していた。アイダホ州オックスフォードワードの監督は逮捕を逃れるために、夜になるのを待って、「『ユタ、オグデン』行きと刻印された豚肉の箱の中に忍び込んで」町を出た。この監督はネスビット兄弟に出してもらうまで24時間箱の中に隠れていた。そして夜の闇に乗じて、オグデンの義理の兄弟の家へ行き、そこで安全に暮らした。

ジェームズ・モーガンは5番目の妻アンナとともに奥深い森に入って材木を切り出し、息子たちがそれを町まで運ぶという生活をしていた。

ハイラム・プールはアイダホ州メナンに住む少年だった。「1883年の冬のこと、ハイラムは兄弟のウィリアムと一緒に遅い夕食を取っていた。……突然荒々しくドアをたたき音がしたため、ハイラムがドアを開くと銃身が差し込まれた。そして乱入

時満ちる時代の教会歴史

者が叫んだ。『ドアを開けろ。開けないとドアをたたき壊すぞ。』ハイラムはとっさに銃身をつかむと全体重をドアに預け、ドアが開かないようにした。それと同時に、ウィリアムと二人の使用人が駆け寄って来て、ドアを押さえた。

ついに乱入者はドアを押す力を弱めた。彼らは執行官代理で令状を持っており、『N・A・スティーブンスの隠れ家を探している』と言った。そこでドアを開いて中へ入るのを許したが、ハイラム・プールは『まるで暴徒か殺人者のように』力ずくで入ろうとしたことを非難した。一行のリーダーだったイーグル・ロック酒場の主人ウィリアム・ホブソンはそのとき少し酒に酔っていた。そしてハイラムの顔をライフルで殴りつけ、『役人に抵抗するとどうなるか分かっているのか』と言った。

搜索の結果、スティーブンスなる人物は見つからなかった。彼らは引き揚げる際、ハイラムに同行するように言った。闇に包まれた外に足を踏み出すと、ホブソンはいきなりライフルの銃底で頭を殴りつけた。頭がざっくりと割れてハイラムはその場に昏倒した。¹¹ ハイラム・プールは検挙されたほかの囚人とともに「ブラックフットまで連行され、投獄された。彼らは2日間食物が与えられないまま放置され、けがの手当ても、判事に申し立てをする機会も、保釈金による仮出所の機会も与えられなかった。」¹¹

有罪が確定した末日聖徒の中には、遠くミシガン州のデトロイトへ移送され、孤独と恐怖に耐えながら刑に服した人たちも何人かいた。

有罪が確定した多くの聖徒はユタ準州刑務所に送られ服役したが、彼らは模範囚だった。福音の勉強をしたり、書物を執筆したり、他の囚人に読み書きやその他一般には軽視されがちではあるが基本的な技術を教えるなどをして過ごした。服役を終えて出所すると、地域を挙げてのパーティーが開かれ、人間が作った法律よりも神の律法を選んだ彼らをたたえた。しかし、残された家族の方が服役している人よりもはるかに大きな苦しみを味わったことだろう。夫や父親に頼ることもできずに、貧困、飢え、病気に苦しむ人々がいた。このように教会に敵対する社会運動は、経済、社会、教会、家族生活を崩壊に追いやった。しかしこれだけで終わったわけではなかった。1880年代末期には、さらに大きな暗雲がはるかかなたの地平線上に姿を見せてきたのである。

多妻結婚反対運動のさなか、ロッキー山間西部の末日聖徒は逮捕され、裁判に付された。そして有罪判決を受けた者たちは投獄された。ほとんど知られていないことだが、「不法な同棲」のかどで有罪判決を受けたアイダホの多くのモルモンはデトロイト刑務所で服役した。この絵は彼らが投獄された当時のミシガン州デトロイトの刑務所である。



ミシガン州デトロイト市立図書館の厚意により
同所蔵バートン歴史選集より掲載

合衆国議会は1853年3月3日、ユタに刑務所を建設するための予算を承認した。数か月後ユタ準州長官アルモン・W・バビットが用地を決定した。ソルトレーク・シティー地域に建設されたこの刑務所は1854年に完成し、約2万8,000平方メートルの敷地を有していた。外堀は、高さ3.6メートル、厚さ1.2メートルのれんが作りだった。



ユタ州歴史協会の厚意により掲載

前進する王国

多妻結婚反対運動という「嵐」が吹き荒れる中を、テラー大管長は1880年代初期の教会を導いて前進させている。大管長はシオンのステーキを定期的に巡回し、ステーキの秩序を回復させ、聖徒たちを教え、また助言と励ましを与えるために熱心に働いた。また、夫、妻、両親、子供、隣人、一市民として日常生活での振る舞いに注意を払うこと、思いと行いの両面において一致、誉れ、高潔、正直、清さを重んじることを民に強く求めた。

1881年、テラー大管長は『神権に関する事項』(Items on Priesthood)と題するパンフレットを自ら執筆し、出版した。これは、神権者特にアロン神権の各職に聖任された若い男性を指導することを目的としていた。翌年には『仲保と贖罪』(Mediation and Atonement)と題した書物を出版した。この書物は世の罪に対して救い主の贖いが必要であること、また主の栄光と権能に関する一連の聖句とそれらの解説をおもな内容としていた。

テラー大管長は自分が受けた啓示に基づいて、聖徒を導き教えた。預言者ジョセフ・スミスが示した模範に従い、テラー大管長は与えられた靈感を書き留め、出版している。そのような啓示の一つに、総大会を終えた数日後の1881年10月13日に口述したものがある。十二使徒定員会は10名で構成される時期が2年間も続いていた。この空席について預言者は頭を悩ましていた。そうしたときに、啓示が与えられた。そして、ジョージ・ティースデールとヒーバー・J・グラントが使徒として、医師のシーモア・B・ヤングが七十人第一評議会に召された。またこの啓示によって、インディアン各部族に対する伝道活動を強化することが明らかにされ、神権者と全聖徒はこれまで以上に正義を行うことを求められた。¹²

数か月後にヒーバー・J・グラント長老が経験した出来事から、この啓示が与えられた背景をかいま見ることができる。グラント長老の語るところによると、彼は使徒職に召されてから数か月間、自分が救い主の特別の証人としてふさわしくないと感じていた。1883年2月、グラント長老は、インディアンの間で教会を設立するために働いている人々を支援する責任を受けて、アリゾナ北部のナバホ保留地に向かって旅をしていた。その途中で、グラント長老は同僚に、一人になる時間が少し欲しいことと目的地まで別の道を通って行きたいことを告げた。馬を走らせているときに起きた出来事を次のように述べている。

「わたしはそれを見たと思う、また確かに聞いたと思う。それは、これまでの人



ジェームズ・バクストンの木彫りの作品とサイン帳。この時代の末日聖徒は、多くが宗教的信条のゆえに投獄されていた。彼らは服役中に木彫りの作品を作ったり、サイン帳を作ったり、日常の行動や思いを日記につづったりしていた。

時満ちる時代の教会歴史

生で経験したことがないほど現実感があつた。それは天上の会議のようであつた。そこで語り合う声が聞こえた。……大管長会と十二使徒評議會は十二使徒定員会の空席を満たす二人の人を決めかねていた。……わたしが見たこの天上の会議には救い主が出席しておられた。わたしの父〔ジェデダイア・M・グラント〕もいた。預言者ジョセフ・スミスもいた。彼らは、二つの空席を補充しないことが間違いであること、このまま放置しておけば定員会が完全な姿になるには恐らく6か月はかかるであろうということを話し合っていた。そしてだれをこれらの職に就かせたいかを話し合った。結論として、これらの空席を埋めなかった誤りを正すために、啓示が下されることになった。預言者ジョセフ・スミスとわたしの父はわたしの名を挙げ、その職に召すように要請したことが、わたしに知らされた。わたしはそこにうずくまって、喜びのあまり泣きだした。……

その日以来、わたしは自分が使徒としてふさわしくないという思いに悩まされることは、昼夜を問わずまったくなくなった。¹³

1884年5月17日、テラー大管長はローガン神殿を奉献した。ローガン神殿は教会の4番目の神殿であり、ユタで2番目に完成した神殿だった。奉献式を翌日に控えた夜、テラー大管長はこの建物を受け入れられるかどうかを主に尋ねた。祈りはこたえられ、啓示が与えられた。主は次のように言われた。「わたしに建てられたこれらの家と今後建てられる家において、わたしは、過去、現在、未来に関すること、現在あなたがたが営んでいる生活と来るべき世の生活について、律法と秩序と支配と管理について、この国と他の国々に影響を及ぼす事柄について、さらに時と時季における天体の律法ならびに万物が治められる原則すなわち律法について豊かに明らかにするであろう。」¹⁴ 翌日神殿の奉献式に集まった聖徒たちは御霊が豊かに注がれるのを目撃した。

テラー大管長が管理する時代に、再発行された教会出版物や新たに発行されることになった教会出版物が幾つか登場した。その中で最も重要な出版物は、広範囲に及ぶ相互参照と注説明を追加して1879年に再発行された『モルモン書』と『教義と聖約』である。1878年に出版された『高価な真珠』は、以前は宣教師のちらしの形態を取っていた。これらの出版作業にはオーソン・プラット長老が当たった。新しく出版された『教義と聖約』ならびに『高価な真珠』は、1880年10月の総大会において正式に聖典として加えられた。1879年の初めにジュニアス・F・ウエルズが月刊誌として発行した『コントリビューター』(Contributor)は正式に相互発達協会の機関誌となった。さらに、教会歴史記録者補佐のアンドリュー・ジェンソンが出版した『歴史記録』(Historical Record)は数多くの出来事と年表を内容としたもので、教会歴史の研究や執筆には非常に貴重な書物となった。さて、教会は引き続き経済的な団結を強く推進していた。そこで生まれたのが共同制度に代わるシオン中央取引所であった。各ステークにも取引所が創設されたが、これらは中央取引所の下部組織としての機能を果たした。取引所の業務は、商取引を促進すること、新しい市場を開発すること、農業や製造業に従事する人々に情報を提供すること、家内産業に悪影響を及ぼす競争を避けること、また時には地域社会の安定を図るために賃金や価格を規制することなどであった。



スイス生まれのジェイコブ・スポリ(1847 - 1903年)はバレスチナに渡った最初の宣教師である。

ユタに移民したスポリは教育事業に専念した。後にアイダホ州レックスバークに移住して、新設されたバノックスステーク・アカデミーの校長に任命された。このアカデミーは現在のリックスカレッジである。スポリはこの学校を現在の姿までに成功させるために多大の犠牲を払っている。二人の教師の給料を支払い、学校の運営費を捻出するために、線路工事夫をしたこともある。

伝道活動の推進

伝道活動は相変わらず伸展を続けていた。メキシコでは1876年以来伝道活動が展開され、ある程度の成功を収めていたが、1881年に至ってモーゼス・サッチャー長老は福音を宣べ伝える地として同国を奉獻した。1881年にはニュージーランドのマオリ族の間でも伝道活動が開始されている。1884年にジェイコブ・スポリはトルコ伝道部を開設した。後に同伝道部はパレスチナまで地域が拡大されている。スポリ長老は、イスラエル北東部のハイファから聖地を訪れてキリストの再臨を待っていた人々の中から改宗者を見いだした。彼らはドイツ語を話していた。これは、スポリ長老がかつてコンスタンチノーブルで受けた示現が成就したものであった。英国諸島、スカンジナビア、スイス、オランダ、ドイツでも伝道活動は引き続き成功を収めていた。

合衆国においても伝道活動は引き続き拡大していた。一例を挙げると、ジョン・モーガンは教会に入る以前に見た夢を記憶していて、改宗後その夢で見たままにジョージアの小さな集落へ行き、福音を説き、そこに住んでいたほぼ全員にバプテスマを施した。しかしながら、伝道活動には危険が伴わないわけではなかった。特にアメリカ南部は危険だった。南部において教会が成長を続けるにつれて、妨害活動も急増した。

1879年7月21日、ジョセフ・スタンディング長老とラドガー・クローソン長老はジョージア州ローマで開かれる教会の大会に出席することになっていた。出発した二人はバーネルズステーション地域に入ると、ライフルで武装した12人の男たちに取り囲まれ、脅された挙げ句森に連れ込まれた。暴漢のうちの3人が馬に乗ってもっと人里離れた場所を探しに行っている間、長老たちは口汚くののしられた。3人が戻って来たとき、どのようにして手に入れたかは分からないが銃を手にしたスタンディング長老は突然立ち上がって銃口を男たちに向け、「降伏しろ！」と叫んだ。すると横に座っていた男が突然、スタンディング長老に向けて銃を発射した。スタンディング長老は顔に被弾した。12丁のライフルを突きつけられたクローソン長老は両腕を組み、静かに死を待った。すると彼らはライフルの銃口を下げ、けがをしている同僚のために助けを求めに行くように言った。クローソン長老は人々を連れて現場に戻ると、スタンディング長老は至近距離から頭と首に数発の弾を浴びて絶命していた。クローソン長老に付き添われ、遺体となってソルトレーク・シティーに戻ったスタンディング長老に対して、聖徒たちは、神の大義のために犠牲となった新たな殉教者に心からの敬意を表した。¹⁵

ジョセフ・スタンディングは以前にも南部諸州で伝道しており、殺害されたときは南部諸州への2度目の伝道であった。この伝道もすでに16か月を過ぎており、間もなく解任されるはずだった。後にジョン・モーガン伝道部長とクローソン長老はジョージアへ戻り、殺人者たちに対する告発の証言台に立ったが、裁判の結果は無罪だった。

5年後の1884年8月10日にケインクリーク大虐殺が起きた。この事件は、『ソルトレーク・トリビューン』(Salt Lake Tribune) 紙に掲載された「ウェスト監督の演説」が瞬く間に流布されたことが直接の原因とされている。この演説は、1884年3月にユタのジュアブに住む一人のモルモンの監督が行ったと何者かが主張した偽りの情報



ジョン・モーガン（1842 - 1894年）は南北戦争で北軍の兵士として戦った経験を持つ。1866年にユタに移住し、教育関係の仕事をした。福音に改宗してバプテスマを受けたのは1867年11月26日のことである。1875年から1877年まで南部諸州で宣教師として働いた。1878年には伝道部長として南部に戻っている。1884年に七十人第一定員会会員に召され、他界するまでこの職にあった。



ジョセフ・スタンディング（1854 - 1879年）は教会の殉教者の一人である。1875年から1876年まで南部諸州での伝道を終えた後、1878年に2度目の伝道のため南部諸州へ戻った。スタンディング長老は親切で、温厚な性格を持ち、分別を備えていたため、ジョン・モーガン伝道部長は彼をジョージアでも教会に対する敵対心が旺盛な地域に派遣した。ラドガー・クローソン長老が同僚として赴任したのは1879年の初期のことである。

ジョージアにおいてジョセフ・スタンディングが殺害されたというニュースはユタの教会員に大きな衝撃を与えた。ソルトレーク・タバナクルで行われた彼の葬儀には1万人近くの人々が参列した。

時満ちる時代の教会歴史



変装して写真に収まるB・H・ロバーツ（1857 - 1933年）。ギブス、ベリー両長老の遺体を取り返しに行くためにこのように変装した。ロバーツ兄弟は少年時代を英国で過ごした。彼はアメリカに渡ったとき、ほとんど徒歩で大平原を横断しユタまでたどり着いた。

ロバーツ兄弟はデゼルト大学での正規の教育のほかに、自分でかなりの勉強をして、教会史上最も明瞭で雄弁な説教者、また教会歴史に名を残す作家の一人となった。彼は『教会歴史（ジョセフ・スミスの歴史）』全7巻を編集出版した後『教会歴史概史』として知られる全6巻から成る教会の第1世紀の歴史を出版した。

ロバーツ長老は1888年31歳で七十人第一委員会に召された。1898年に合衆国下院議員に選出されたが、彼の多妻結婚への関与についての論議が持ち上がったため議席に就くことを許されなかった。

60歳を過ぎてから、第一次世界大戦中の1917年から1918年までアメリカとフランスにおいてユタ出身の兵士のための従軍牧師を務めた。

だった。ジュアブにはウェスト監督なる人物は存在せず、異邦人に対する下品な説教もでっち上げであることが直ちに判明したが、この架空の説教は合衆国東部と南部で広い範囲に流布されてしまった。そのうちの1枚がテネシー州ルイス郡にたどり着き、内容がモルモン反対グループの間に伝えられた。

ジェームズ・コンドーの家では聖徒たちが集まり安息日の集会を開いていた。そこへ暴徒が結集し、銃撃を開始した。二人の宣教師ジョン・H・ギブス長老とウィリアム・S・ベリー長老、コンドー家の家族二人、そして暴徒の主犯が殺害された。伝道部長がそのとき不在だったため、任務を受けた若きB・H・ロバーツは変装し、命がけでケインクリークへ行った。そして、長老たちの遺体を発掘して、ユタで埋葬するために持ち帰った。¹⁶ 後に彼は神の助けがなければ、とうてい使命を果たすことができなかったと話している。しかしながら、スタンディング長老の場合と同様、殺人者は裁判にかけられたが、判決は無罪だった。

再度の嵐の来襲

1880年代が終わるころには、聖徒のあらゆる定住地で執行官代理による嫌がらせが起きていた。千人を超える男性と少数の女性までもが、多妻結婚のかどで投獄された。テラー大管長は、ウィルフォード・ウッドラフや他の教会役員と同じく、^{いんとん}隠遁生活に入った。

主としてアリゾナとニューメキシコに入植していた数百名の聖徒は、激しい迫害を受けたため、1885年末までに急ぎよ同地を引き払いメキシコの定住地に移動した。これらの追放された聖徒を管理したのはジョージ・ティースデイル長老であった。1886年にユタ北部のキャッシュステーク会長であったチャールズ・オラ・カードは避難した入植者を保護収容する施設を建設する場所をカナダで見つけるようにとの要請を受け、現在アルバータ州カードストンと呼ばれている地域に場所を確保した。そして間もなくこの地域におけるモルモンの定住地が確立された。

多妻結婚に対する司法の圧力が一向に衰えを見せないため、多くの聖徒は生活の方法を変えざるを得なかった。重婚禁止法を除いてすべての法律を守っていたにもかかわらず、人々は、彼らを血眼になって探す連邦執行官から逃れるために、地下に潜り、住居を転々としたのである。逃亡を続ける「コハプス」（多妻結婚を実施している者はこう呼ばれた）は追っ手から逃れるために溪谷、小屋、牧草地、穴蔵に身を隠した。連邦役人は住居に立ち入るために行商人や国勢調査員に変装するなどして対抗した。搜索のために、家屋に不法侵入してプライバシーを侵害したり、妻子に^{ろうぜき}狼藉を働く連邦執行官もいた。末日聖徒を捕らえた者には一人につき10ドルから20ドルの賞金を出したり、中央幹部を見つけた者にはさらに多額の賞金を用意されたりした。こうした中で、1886年12月10日に悲劇が起きた。

エドワード・M・ドルトンが自分の町であるパロワンの通りで馬に乗っていたところを連邦執行官代理のウィリアム・トンプソン・ジュニアに^{そげき}狙撃され、殺害されたのである。ドルトンは1885年に「不法な同棲」で告発され、裁判を逃れるためにアリゾナへ行っていた。そしてパロワンに戻ったところを、銃撃されたのである。¹⁷

1886年、依然として隠遁生活を続けていたジョン・テラー大管長は、ユタのケイズビルの市長トーマス・F・ルーシュが所有する農家に移動した。落ち着いた生活

迫害の10年：1877 - 1887

を確保できたこの家で大管長は、従来どおり一般書簡を通じて聖徒たちにメッセージを伝えた。大管長と教会指導者の間の連絡は、指導者が護衛付きの馬や馬車で夜間、大管長の隠れ家を訪れる方法をとった。この時期、大管長の健康状態は悪化する一方であったため、同じく隠遁生活にあったジョージ・Q・キャノン副管長がほとんどの教会業務を処理していた。第二副管長のジョセフ・F・スミスはことのほか搜索が厳しかったため、ハワイへ伝道に旅立っていた。

ジョン・テラー大管長は多妻結婚反対の動きが熾烈を極めたため、1885年2月1日から地下に潜り、その後定期的に居所を変えた。1886年11月22日、テラー大管長はユタのケイズビルにあったトーマス・F・ロッシュの家に移動した。木々に囲まれ、農地越しの東へ2キロほど先にケイズビルの集落と、その背後に山並みが見える風光明媚な場所だった。ロッシュ家族の家はジョン・テラーの最後の住まいとなった。大管長に同行した記者によると、大管長は1887年4月から6月まで寝たり起きたりの状態だった。

その間、ジョージ・Q・キャノン副管長はひそかにケイズビルとソルトレーク・シティ間を往復し、教会業務の多くを処理した。6月末にテラー大管長は衰弱し始め、ほとんど食事ができなくなり、意識不明の状態を繰り返すようになった。そして7月25日の夜、静かに息を引き取った。



1887年7月25日、テラー大管長は逃避中の身のまま世を去った。連邦執行官たちは葬儀に姿を見せたが、だれも逮捕しなかった。しかし、教会の大管長となったウィルフォード・ウッドラフは依然として隠遁生活を余儀なくされていた。この時期の聖徒たちは神への忠誠を試されていた。多妻結婚反対運動が渦巻き、多妻結婚の禁止を法制化された国でなお、多妻結婚を実施しよう神から命じられていたからである。

1887年3月、エドマンズ・タッカー法の議会通過に伴い、妻は夫に不利なことであったとしても証言しなければならないこと、すべての結婚は公の記録に残さなければならないことになった。またこの法律により、郡遺言検認判事は合衆国大統領により任命されることになった。ノーブー軍団の時代に起きたことが再び繰り返された。ユタにおける婦人参政権運動は完全に崩壊し、永続的移住基金は解体され、そして公立学校教育制度が実施されることになった。教会の法人格は剥奪された。そして合衆国司法長官の権限によって5万ドルを超える教会の資産と所有地は合衆国に没収された。連邦政府を首謀者として展開される教会への迫害がこのように継続される中、教会はウィルフォード・ウッドラフ大管長による新しい管理体制を迎えたのである。



ジョン・テラー大管長のソルトレークの公邸がこのガードハウスである。死後、大管長の遺体はここへ戻され、埋葬の準備が行われた。1887年7月29日に遺体はタバナクルに運ばれ、公開された。

ガードハウスの建設はブリガム・ヤングの指示の下に始められ、ジョン・テラーが大管長在職中に完成した。そして1883年2月22日フランクリン・D・リチャーズにより奉獻された。ジョン・テラーの死後、ガードハウスはウィルフォード・ウッドラフの執務室として使用された。後に教会はこの建物をサンフランシスコのフェデラル・リザーブ銀行に売却したが、1921年11月に解体された。

注

1. ウィルフォード・ウッドラフの日記, 1877年9月4日, 末日聖徒歴史記録部, ソルトレーク・シティー

2. “General Conference” *Deseret News Semi-Weekly* 「総大会」『デゼレトニュース, 隔週刊』1877年10月9日付, 2

3. B・H・ロバーツ, *The Life of John Taylor* 『ジョン・テラーの生涯』(Salt Lake City: Bookcraft, 1963), 334 - 337参照

4. Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints 『日誌で見た末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史』1883年3月4日, 末日聖徒歴史記録部, ソルトレーク・シティー, 8 - 10; *Territorial Enquirer* 『準州探求者』1883年3月6日; “Celestial Marriage: How and When the Revelation Was Given” *Deseret Evening News* 「日の栄えの結婚: いつどのようにして啓示が与えられたか」『デゼレト・イブニング・ニュース』1886年5月20日付, 2参照

5. Millennial Star 『ミレニアルスター』補遺, 1853年, 18

6. ジョセフ・フィールドینگ・スミス, *Essentials in Church History* 『教会歴史粋』モルモン名著シリーズ (Salt Lake City: Deseret Book Co., 1979), 44

7. B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Century One* 『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概史 第1世紀』全6巻 (Salt Lake City: The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1930), 5:314

8. ブルース・A・バン・オーデン “George Reynolds: Secretary, Sacrificial Lamb, and Seventy” 「ジョージ・レイノルズ: 秘書, いけにえの子羊そして七十人」博士論文, ブリガム・ヤング大学, 1986年, 53, 57 - 62, 71, 76 - 77, 80 - 86, 103, 108参照

9. ジョージ・レイノルズ, *A Complete Concordance of the Book of Mormon* 『「モルモン書」の全用語索引』全2巻 (Salt Lake City, Deseret Book Co., 1957)

10. ロバーツ 『ジョン・テラーの生涯』360, 362

11. M・D・ビール, *A History of Southeastern Idaho* 『アイダホ南東部の歴史』(Caldwell, Idaho: Caxton Printers, 1942), 86, 312 - 313

12. ロバーツ 『ジョン・テラーの生涯』349 - 351参照

13. Conference Report 『大会報告』1941年4月4日, 4 - 5で引用

14. ボール・トーマス・スミス “John Tayler” 「ジョン・テラー」*Presidents of the Church* 『教会大管長』レオナード・J・アリントン編 (Salt Lake City: Deseret Book Co., 1986), 110 - 111で引用

15. “The Murder of Joseph Standing” *Deseret News* 「ジョセフ・スタンディング殺害事件」『デゼレトニュース』1879年8月6日付, 428 - 429; “The Funeral Services of Elder Joseph Standing” 「ジョセフ・スタンディング長老の葬儀」『デゼレトニュース』1879年8月6日付, 429参照

16. B・H・ロバーツ 『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概史 第1世紀』6:86 - 93; “Death of James Condor” 「ジェームズ・コンドールの死」『インブルーメント・エラ』1911年10月号, 1107 - 1108参照

17. B・H・ロバーツ 『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概史 第1世紀』6:116 - 121; “Homicide at Parowan” 「パロワンにおける殺人」『デゼレトニュース』1886年12月22日付, 777参照